

研究テーマ ゼミ生が関心のある経済問題・社会問題を題材に、それらがどういう問題なのかを経済学の視点からとらえ直し、データを用いて当該問題の実態を定量的に測定し理解することを第一の目標としている。その上で、問題への有効な対策についても考察している。参加ゼミ生の関心によるが、研究テーマとしては、医療サービス市場に関連した問題を取り上げることが多い。近年の研究テーマの具体例としては、医療技術の高度化が医療費高騰に与える影響の定量分析、Two-sided market モデルを用いた SNS 市場の分析、内生性バイアスを考慮した上でのスポーツ強化費の効果に関する実証分析、鉄道ダイヤ改定の余剰分析などがある。研究テーマ毎にグループに別れ、グループ単位で研究の実施・成果報告を行っている。

運営方針 現実の社会現象をよりよく理解するために経済学を応用すること、実際のデータを用いて自分の仮説が正しいかどうか確かめること、2点の修得を目標とする。研究課題の設定-仮説をたてる-理論・データによる仮説検証、といった一連の作業を実際に体験しながら、経済学的に考える力を身につけてゆく。ゼミでは3-4人をグループとして、グループ単位でゼミの準備・研究を行う。

現在の在籍人数 26名

運営形態 演習1・3を春学期に、演習2・4を秋学期に合同実施。留学については個別に相談のこと。

選考方法 レポート提出、面接

前提科目 経済学科生：ミクロ経済学A・B・C（並行履修可） 経営学科生：経済学総論I（並行履修可）

履修が望ましい科目 統計学・計量経済学関連科目（所属学科問わず。並行履修可）

ゼミ合宿など ゼミ合宿・コンパなどは参加学生の都合に合わせて行う予定。

その他

研究テーマ 分析対象：あらゆる社会問題に興味がありますが、特に経済や組織の活性化を研究しています。
分析手法：ゲーム理論、行動経済学等を応用した理論研究

運営方針 ゼミでは、社会的課題の解決を事業の目的とする「ソーシャル・ビジネス」をテーマとして、ゲーム理論、行動経済学などの基礎的な理論を応用して問題を解決する能力（知識、技術、考え方）を身につけることを目標とします。ゼミではゼミ生が主体となってグループ学習を行います。意欲的かつ主体的にゼミに参加できる学生と一緒に有意義な学びの場を作りたいと考えています。
具体的には、知識を深めるための反転学習（自宅でテキストを読んできて、ゼミの時間内にその内容について議論する）と課題解決型学習PBLに学生が取り組みます。最後にPBLの成果発表会を行います。ゼミの連絡や情報共有などにFacebookを利用します。

現在の在籍人数 27名

運営形態 演習1・2・3・4を合同実施。留学については個別に相談のこと。

選考方法 2種類の課題を課し、面接を行い、学習意欲とコミュニケーション、成績に基づいて選考をします。

前提科目 特になし

履修が望ましい科目 特になし

ゼミ合宿など 初回の懇親会と合宿は教員と一緒に企画運営します。その他のイベントはゼミ生に委ねます。

その他 詳しくはmoodleのコース「2016年度川西ゼミ演習I 選考課題」をご覧ください。

近藤 広紀 (こんどう ひろき)

研究テーマ 生活の身近にある公共経済について、具体的には、年金・介護・医療・育児をめぐる公共政策や社会保障政策、道路や図書館、学校、病院、環境保全などの公共サービスをいかに運営していくのかについて学びます。

運営方針 基本的なミクロマクロ、および公共経済学を学んだのち、ゼミ生のテーマに沿って研究と発表を行い、レポートの形にまとめます。

現在の在籍人数 3年生9名+4年生5名

運営形態 演習1・2・3・4を合同実施。留学については個別に相談のこと。

選考方法 面接を行います。

前提科目 なし

履修が望ましい科目 とくになし

ゼミ合宿など 予定していない

その他 何事も日々の積み重ねが大切です。ゼミで学んだことは必ず復習して次のゼミへ臨むように心がけて下さい。

竹田 陽介 (たけだ ようすけ)

研究テーマ ゼミのキー・コンセプトは、「個人と社会の相互作用」。「グローバル化と国民国家」「日本国憲法と立憲主義」「人口減少と長期停滞」「イノベーションとテクノロジー」「財政規律と金融抑圧」「AIと雇用」「移民難民」「メディアと共感」。すべて、いまを生きるわたしたち個人がどう考え、社会にどう伝えるかが問われる大事なコト(問題、テーマ)。マクロ経済学・ミクロ経済学のみならず、社会学・政治学・経済哲学など関連する分野が道標になる。合言葉は、「経済学をもっともっと面白くしよう!」。論文・書籍・新聞記事・ブログなどから基本文献を精査し(読む)、解ったことについて議論し(話す、聞く)、自分の考え方をまとめる(書く)。読む・話す・聞く・書くという循環を繰り返しながら、大事なコトについて貪欲かつ冷静に答えを探し、深く関わっていきたい。

運営方針 社会科学の面白さは、自前の「仮説」を創造していく過程にある。読書・他人との議論を通じて、じっくりと時間をかけながら、独自の仮説を形成していく作業は、ゼミに参加する学生のみならず、指導する教員にとっても楽しい。学生ひとりひとりがもっている「何か」を大事にししながら、「いい雰囲気」の中でともに時間を過ごすことこそ、理想のゼミの姿だと思う。熟成と忍耐、これこそゼミの方針。賛同する学生の参加を望む。

現在の在籍人数 17名

運営形態 演習1・2・3・4を合同実施。留学については個別に相談のこと。

選考方法 面接。

前提科目 経済学科生 「マクロ経済学」(並行履修可)
経営学科生 「経済学総論Ⅰ」あるいは「経済学総論Ⅱ」(並行履修可)

履修が望ましい科目 なし

ゼミ合宿など いま、日本の「地方」は疲弊している。地方でしか生まれたい発想をもとめて、「東京には会えないが、一度会ってお話を伺いたい人」に会うため、地方に出向きたい。人選は、学生と相談して決める。また、個別の研究テーマに関して論文発表を行うインゼミの機会も開かれている。

その他 少し古いですが、このサイトのインタビューが参考になる。
<http://econ-web.cc.sophia.ac.jp/special/semi/prof/takeda.htm>

出島 敬久 (でじま たかひさ)

研究テーマ 雇用制度や賃金制度の変化が、家計消費や貯蓄に与える影響
 少子化と人口減少の中でも、経済成長を持続できる働き方改革
 人口減少が先行する地域経済での産業と雇用創出、成長の展望

運営方針 少子化が続く日本では、人口と労働力人口ともに年率1%超で減り続け、経済成長は抑制されます。求められるのは、生産性を高め、子育てと両立できる働き方改革で、その手法と効果、課題を考えます。また、日本全体が迎える人口減少への対応では、東京よりも地方が先行しています。各地域の成長を持続するには、比較優位のある財の生産が重要で、他地域との生産要素の違いが活かせる産業(観光サービスなども)の事例を展望します。3年次では日本の雇用や賃金の動向、日本と地域の経済成長に関する文献や基礎的な統計データを学び、4年次は各自の研究報告と議論にあてます。

現在の在籍人数 9名

運営形態 演習1・2・3・4を合同実施。留学については個別に相談のこと。

選考方法 少子化・人口減少と働き方改革、雇用や賃金の動向、地域経済と雇用などへの関心を尋ねます。

前提科目 経済学科生：ミクロ経済学Iおよびマクロ経済学(並行履修可)
 経営学科生：経済学総論Iおよび経済学総論II(並行履修可)

履修が望ましい科目 ミクロ経済学II

ゼミ合宿など ゼミ生の希望日程と行先がまとまれば、合宿を企画します。

その他 研究課題によっては、経済政策などに関する論文コンテストへの応募を考えます。

プテンカラム ジョンジョセフ**秋学期集中**

研究テーマ 途上国の開発目標
 1. 社会—経済的責任
 2. 極度の貧困と飢餓の撲滅
 3. 初等教育の完全普及の達成
 4. ジェンダー平等推進と女性の地位向上
 5. 開発のためのグローバルなパートナーシップの推進

運営方針 上記の問題についての基本文献を購読しゼミで報告することが主たる活動になります。現実的諸問題を解決するための理論的枠組みを身につけ、自分自身で創造的問題解決を行う論理的思考能力を高めることを目的とする。
 各自は、この分野における自分の関心がどこにあるのかを追求し、研修をもとにした課題をレポートとする。

現在の在籍人数 8名

運営形態 演習1・2・3・4を合同実施。留学については個別に相談のこと。

選考方法 面接試験 **前提科目** なし **履修が望ましい科目** 経済開発論

ゼミ合宿など ゼミ合宿など、基本的にゼミ員の発意に委ね、それを尊重します。

その他 積極的に学ぶ姿勢を持つ学生が望ましい。URL : <http://pweb.cc.sophia.ac.jp/j-puthen/>

研究テーマ 世界の経済はいま大きく変化しています。中国をはじめとする新興国は急速に経済発展し、アメリカでは IOT や AI といった新技術を応用した新たなビジネスが大きく成長しています。こうした日本を取り巻く世界経済の変化は、日本の産業や貿易にどのような影響を及ぼしているのでしょうか。また、私たちが日ごろニュースで知る為替レートの変動は、国際経済取引の中でどのように決定され、私たちの経済活動にいかなる影響をもたらすのでしょうか。現代のグローバル経済では、いかなる分野のビジネスにおいても国際経済学の視点が不可欠です。国際経済学の知識や考え方を学ぶことを通して、世界経済で起きていることを理解し、将来の動向を見通す力を養えるようなゼミにしたいと考えています。

運営方針 例年、春学期には国際経済学の基本的なテキスト（日本語）を教材として、毎回、学生が担当箇所を報告しています。参加者全員がテキストについての事前課題を提出し、報告者のプレゼンテーションについてのフィードバックを行っています。サブテキストとして計量経済学の基本的な教科書を使い、データ分析の基礎スキルを習得しています。また、秋学期に開催される他大学とのインターゼミでの報告に向けて、少人数のグループごとにゼミ論文を作成しています。9月末の夏合宿で論文テーマを決定し、秋学期には先行研究の文献調査やデータ収集・分析を行い、11月末の論文完成を目指します。12月に開催されるインターゼミでは、作成した論文の内容を他大学の学生や教員の前でプレゼンテーションし、質疑応答や討論を行います。ゼミ論文の作成過程で習得したスキルを活かして、4年生は卒業研究に取り組みます。

現在の在籍人数 18名

運営形態 演習1・2・3・4を合同実施していますが、それぞれ異なった課題に取り組んでいます。

選考方法 面接（エントリーシート的事前提出あり）

前提科目 経済学科生：ミクロ経済学A（並行履修可）
経営学科生：経済学総論IあるいはII（並行履修可）

履修が望ましい科目 International Economics and Business, 国際貿易論I・II

ゼミ合宿など 夏休みにゼミ合宿、12月に他大学のゼミとインゼミ（合同研究発表会）を行っています。また、過去3年間、タイ海外研修（大学での英語によるプレゼンテーション、JICA海外事務所訪問など）を実施しました。

その他 教員HP：<http://pweb.cc.sophia.ac.jp/m-yomogi/>

研究テーマ

- ・ 社会が直面している様々な社会・経済問題からいくつかのテーマをゼミ生が自由に選び、3・4年合同のグループで政策提言論文を作成し、全国から毎年約70ゼミが参加しているISFJ(日本政策学生会議)に参加します(参照 URL：<http://www.isfj.net/>)。政策提言論文とは以下の①～③をまとめた論文のことです：①生じている問題の詳細を調べ、②問題発生メカニズムを明らかにし、③問題を改善できる政策案を自分たちでデザインする。
- ・ 過去にISFJで受賞した論文テーマは以下です。
 - 「子供の貧困の解決に向けて」(2015年, 優秀賞受賞), 「飼料用米の生産促進に向けて」(2015年, 分科会賞受賞), 「大規模震災に備えた木密地域の整備促進」(2016年, 分科会賞受賞), 「宿泊施設不足の解消に向けて」(2016年, 分科会賞受賞), 「高レベル放射性廃棄物最終処分場立地の最適な合意形成を目指して」(2017年, 最優秀賞受賞, 学長奨励賞受賞), 「待機児童問題の解消を目指して—アクセシビリティ指標を利用した保育所設営最適化」(2017年, 優秀賞受賞), 「林業集約化による人工林の管理促進」(2017年, 優秀発表賞受賞), 「介護従業者の定着促進政策—介護サービスの安定供給を目指して」(2017年, 優秀発表賞受賞)。
- ・ 論文作成時にゼミで勉強する主な分野は、ミクロ経済学, 厚生経済学, メカニズムデザイン(ゲーム理論), 法制度の経済分析(法と経済学), 統計・計量分析(主にソフトの使い方と結果の解釈)の他に、テーマに関連する経済学の各分野です(公共経済学・環境経済学・都市経済学など)。

運営方針

- ・ ISFJのスケジュールに合わせて、参加テーマごとに3・4年合同のグループを作り、各グループの進捗報告とグループ間のディスカッションを中心にゼミを行います。必要な経済学を学ぶ時間は適時設けます。

- ・ ISFJ のスケジュール：8月上旬・中間カンファレンス（進捗と今後の方針をプレゼン）、9月下旬・中間発表会（中間論文をプレゼン）、11月上旬・論文提出、12月上旬・政策フォーラム（提出論文をプレゼン）。
- ・ 各年の参加テーマは前年の秋学期にゼミであらかじめ決めます。3年生がそれぞれのグループに加わるかは、3年生の希望に基づいてマッチングメカニズムを使って4月に決めます。
- ・ 3年生は4年生と同等に各グループ内で中心的な役割を果たしてもらいます（4年生の就活中は特に）。
- ・ 教員のサバティカルのため、秋学期集中開講ですが、春学期も活動してもらいます。

現在の在籍人数 14名（4年生）+15名（3年生）

運営形態 演習1・2・3・4を合同実施。留学などについては個別に相談のこと（留学することは構いません。2018年は7人留学しています）。

選考方法 課題と面接（オンラインの予定）により選考。ゼミに積極的に参加できる人で、グループワークでも自分の責任・役割をちゃんと果たせる人であることが必要条件です。課題には科学哲学に関する本が含まれているので（野家啓一『科学哲学への招待』ちくま学芸文庫）、こんなクレイジーな課題にも関わらずエントリーを検討してくれる人は早めに入手して下さい。科学哲学のゼミではありませんが、とても大事なことです。下手に深入りすると帰って来なくなりますが、この本はいい本なのでちゃんと生還できるので、ドロ沼にはまらない程度でいいのでちゃんと読んでちゃんと考えて下さい。

前提科目 ミクロ経済学A・B・C（並行履修可）

履修が望ましい科目 担当教員の開講科目を未履修の場合、並行履修を求めます（中級ミクロ経済学、Game Theory、応用ゲーム理論など）

ゼミ合宿など 夏休みにゼミ合宿を行います（2泊3日）。コンパなどは適時開催します。また、他大学ゼミとのインゼミも適時開催します。

その他

来島 愛子（くるしま あいこ）

経済数学

研究テーマ 統計的手法を用いたデータの分析
確率モデルにおける最適化理論、数理ファイナンスなどへの応用
統計的逐次意思決定問題

運営方針 確率論、統計学に関するテキストを輪読し、問題演習を行うことで、基本的な知識の習得をめざす。また文献講読により、問題設定やモデルの妥当性の検討、結果の考察などモデルを用いた問題への取り組み方を身につける。そのうえで、確率モデルのシミュレーション、データの統計的分析などを行っていく。

現在の在籍人数 7名

運営形態 演習1・2・3・4を合同実施。留学については個別に相談のこと。

選考方法 面接 **前提科目** なし

履修が望ましい科目 数学・統計学（あるいはデータ分析）関連科目（所属学科問わず。並行履修可）

ゼミ合宿など ゼミ合宿などは学生の希望に応じて行う。

その他 好奇心が強く、毎回の出席と積極的な参加ができる学生が望ましい。

竹内 明香（たけうち あすか） 秋学期集中

計量経済学

研究テーマ EXCELやSTATA、SASS、Rを使用したデータ分析手法（統計学・計量経済学）を学ぶ。
データ分析でのゼミレポートを作成し、外部コンクール等への参加を目指す。

運営方針 3年次のゼミの内容は、大きく二つに分かれる。1つは、データ分析を自分でできるようになることである。今年はCSRデータ（企業の社会的責任；賃金、外国人採用、育児制度、介護等）をテーマとしてデータ分析のレポートを作成してもらう。竹内が最初にいくつかの論文を提示するが、その後は、CSRデータを活用したデータ分析を各自で行う。2つ目は、計量経済学の手法の学習である。正規分布、最小二乗法から始まり有意性の検定の学習をし、時間に余裕があれば、より進んだ手法について学習する。

4年生に関しては、3年生のグループ研究の補佐をする。ただし、大学院進学希望者は、卒業論文の執筆を行う。4年生からのゼミ希望者は、卒業論文を必須とする。卒業論文に関してはCSR以外のテーマも選択可能である。

現在の在籍人数 3年生4名 4年次以上11名

運営形態 演習1と3、2と4を合同実施予定（人数によって変更有） 留学については個別に相談のこと。

選考方法 面接

前提科目 統計学Ⅰ（もしくは、正規分布と期待値の計算に関する知識を持っていること）

履修が望ましい科目 統計学Ⅱ・計量経済学（並行履修すること）その他、統計数学関連科目

ゼミ合宿など ゼミ生の希望にあわせて食事会を随時行う。
年に一回（例年12月もしくは1月）に、他大のゼミとの合同研究発表会を行っている。

その他

- ①3年生はワード・パワーポイントとエクセルを使用予定なので、これらのソフトを各自用意してもらいたい。
- ②コンクール・研究会について：
 - ・過去のグループ研究や卒業論文
 - 竹内 HP <http://asukaresearchlab.xyz/>
 - ・全国学生保険学ゼミナール(Risk and Insurance Seminar、以下 RIS)
 - RISのHP <https://sites.google.com/site/riskseminar/>

経済政策

中里 透（なかざと とおる）

研究テーマ 2019年度は「鉄道と都市」「流通（小売業）と消費・物価」「金融と地域経済」というキーワードをもとに、日本経済に関するさまざまなテーマをとりあげて、参加者の報告をもとに議論をしていく予定です。どのようなテーマを取り上げるかは、開講後に参加者のみなさんと相談のうえ決定します。とりあげるテーマのひとつのイメージはこちらの記事をご参照ください。
物価はなぜ上がらないのか？——「アマゾン効果」と「基調的な物価」のあいだ
<https://synodos.jp/economy/21850>

運営方針 ゼミをできるだけオープンな形で活発な議論ができる場にしたいと思います。現実の経済（マーケット？）の動きについて、理論とデータの両面から考察する面白さを追求することがこのゼミの目的です。政策分析に興味があり、機動力のある人の参加を望みます。他学部・他学科のみなさんの参加も歓迎します。

現在の在籍人数 10名（経済学科4名・経営学科6名）

運営形態 演習1・2・3・4を合同実施。留学については個別に相談のこと。

選考方法 レポート提出による選考を行います。

前提科目 経済学科生：ミクロ経済学Ⅰ・マクロ経済学
経営学科生・他学部生：なし（ただし、経済学の基本的な知識があることが望ましい）

履修が望ましい科目 経済学科生：なし 経営学科生：経済学総論Ⅰ・Ⅱ

ゼミ合宿など 夏休みに軽井沢でゼミ合宿を行なっています。年に数回都内で食事会を開催します。

その他 金融機関でエコノミスト・アナリストとして働きたい人、メディアの世界で活躍したい人、大歓迎です。

ゼミ合宿など 学生の希望に応じ、ゼミ合宿や懇親会など行います。

その他 毎回ゼミに参加し、積極的に学びたい学生を歓迎します。

倉田 正充 (くらた まさみつ)

研究テーマ このゼミでは発展途上国が抱える様々な社会・経済問題について、自ら課題を設定し、データ分析に基づいた政策提言のための研究論文を作成・発表することを目指します。研究テーマとしては、途上国の貧困問題をはじめ、農業発展や中小企業の成長に関する産業・労働問題、就学や教育の質をめぐる教育問題、乳幼児や妊産婦の健康に関する保健・医療問題、大気汚染や森林伐採等の環境問題、新興国の都市部で深刻な交通・インフラ問題、また紛争問題など多岐にわたる課題を想定しています。担当教員がこれまで国際協力の研究・業務に携わってきたことから、これらの課題を国際協力の観点から分析するというアプローチも大歓迎です。また経済発展は歴史とも深く関連しているため、諸外国の長期的な経済史に関する研究テーマでも構いません。

現在の在籍人数 9名

運営方針 主な活動内容は以下の4つで構成されます。

- ① **基礎文献の輪読学習**：あらゆる研究テーマに関連する基礎文献（途上国の諸問題に関する文献や統計・計量経済学に関するテキスト等）については全員で輪読・学習します。
- ② **データ分析演習**：統計ソフト（Stata または R）の使用方法を含めた統計・計量経済学の手法についても、実習を通じて全員で学習します。希望に応じて地理情報システム（GIS）を用いた空間計量分析についても講義します。
- ③ **海外フィールドワーク**：希望に応じて途上国の現状や国際協力の現場を知るための海外フィールドワークを実施します（東南アジアまたは南アジアを想定）。
- ④ **研究論文の作成と発表**：各自の研究課題について、先行研究の整理、データの収集と分析、論文の執筆と発表を行います。研究発表の場は日本政策学生会議（ISFJ）や国際開発学会などを想定しています。

研究論文の作成と発表は、人数に応じて個人あるいはグループで取り組むこととします（ゼミ生と相談の上で決定）。ゼミに入る前から明確な研究テーマを持っている必要はありません。まずは「途上国のことを知りたい・学びたい」という漠然とした気持ちだけでも結構です。基礎文献の輪読や他のゼミ生とのディスカッションを通じて自分なりの問題意識を明確化し、それを分析可能な課題にまで具体化してく作業も含めてこのゼミの課題としています。

上記の通りデータ分析を必須とするため統計・計量経済学を学習済みであることが望ましいですが、これらの講義を受講したことがなくてもゼミの中で一から学べるようサポートします。また自分の研究に必要なデータの収集については、主に（1）自分でフィールド調査を実施して収集するか、（2）既存の調査データを利用するかの二択になりますが、前者の場合は基本的なフィールド調査手法について、また後者の場合は国際的に利用可能な多種多様なデータセット（世界各国の家計調査、企業調査、交通データ、人工衛星による夜間光や森林データ等々）についても情報提供やアドバイスをします。

運営形態 演習1・3と2・4を合同実施します。留学も基本的に問題ありませんが、個別に相談してください。

選考方法 面接

前提科目 なし

履修が望ましい科目 統計学・計量経済学またはその関連科目（いずれも並行履修可）

ゼミ合宿など 懇親会やゼミ合宿はゼミ生の希望に応じて実施します。

その他 将来的に金融機関やコンサルティング・ファーム、シンクタンク、総合研究所などでデータ（数字）を扱う仕事を志望する方、また国際機関や国際協力機関、商社など海外でも活躍するような仕事を志望する方にとって、特に重要なスキルを身につけることができる場になると思います。質問がある方はお気軽にメールでお尋ねください（kurata@sophia.ac.jp）。

経営学科

経営系

網倉 久永（あみくら ひさなが）

研究テーマ 経営戦略論・経営組織論・テクノロジー＝マネジメント

運営方針 演習の目的は、現実の経営現象の「おもしろさ」を掴むと同時に、その分析に不可欠な知識と技能を修得することである。演習の進行は、単なるテキストの輪読ではなく、ケースや企業の実例に即したディスカッション、実地調査を含む現実のデータ分析などを行う。すべてのメンバーに積極的に参加することが期待される。

現在の在籍人数 28名

運営形態 演習1・2・3・4を合同実施。留学については個別に相談のこと。

選考方法 面接試験 **前提科目** なし **履修が望ましい科目** なし

ゼミ合宿など ゼミ論文の中間発表・最終報告会のためのゼミ合宿が予定されている。

その他 URL：<http://pweb.cc.sophia.ac.jp/amikura/>

竹之内 秀行（たけのうち ひでゆき）

研究テーマ 企業の国際的な事業展開

運営方針 本演習の目的は、企業の国際的な事業展開に興味を抱き、それに対して多様な視点を養うことにある。そのため、演習の進行は、テキストを読むとともに、ケースや企業の実例を挙げてディスカッションなどを行なう。自分の意見を述べ、他の人の意見に耳を傾けることはとても重要である。なお、4年次にはゼミ論の作成を行なう。演習への積極的な参加を期待します。

現在の在籍人数 37名

運営形態 演習1・2・3・4を合同実施。留学については個別に相談のこと。

選考方法 面接試験・レポート提出 **前提科目** なし **履修が望ましい科目** なし

ゼミ合宿など 合同ゼミなどを兼ねた合宿を予定

その他 なし

山田 幸三（やまだ こうぞう）

研究テーマ 経営戦略論・経営組織論・アントレプレナーシップ・ビジネスシステム

運営方針 アントレプレナーシップ、及び地場産業・伝統産業の企業経営とビジネスシステムの分析を通じて、経営現象の理解を深める。最初に、基本文献の購読とグループ単位でのケース分析・ディスカッションを行い、その上で年2回開催のインターカレッジ・ゼミ討論会のための実態調査と報告論文作成に取り組む。

現在の在籍人数 17名

運営形態 演習1・2・3・4の合同実施、6月と12月開催のゼミ討論会を目標にスケジュール作成 留学は個別相談

選考方法 面接試験 **前提科目** なし

履修が望ましい科目 学科問わず：事業創造論Ⅰ・Ⅱ、経営管理論（並行履修可）

ゼミ合宿など 北海道、中央、大阪市立と上智の4大学5ゼミによるゼミ討論会に必要であれば行う。

その他 URL : <http://econ-web.cc.sophia.ac.jp/teacher/staff/yamada/index.html>

小阪 玄次郎 (こさか げんじろう)

研究テーマ 製品開発論、経営組織論

運営方針 演習で対象とする製品開発論という分野は、経営戦略論や組織論、マーケティングなどの応用領域にあたります。

このため、演習では狭く製品開発だけに絞ることなく、経営学分野の近年の文献を精読する作業を通じて「丁寧に思考する力を養う」ということをまず一つの目的としています。これに加えて、もう少し実践的な取り組みとして、他大学や企業と共に実施している商品企画プロジェクトへの参加、企業の実地調査に基づいたケーススタディの作成、他大学との合同ゼミを行っています。

現在の在籍人数 27名

運営形態 演習1・2・3・4を合同実施。留学については個別に相談のこと。

選考方法 面接 **前提科目** なし **履修が望ましい科目** なし

ゼミ合宿など 夏休みのディプロマシー・ゲーム合宿や、他大学との合同ゼミを予定

その他 なし

細萱 伸子 (ほそがや のぶこ)

研究テーマ 日本企業における人材問題 (人的資源管理論・産業社会学)

運営方針 本演習の目的は、調査研究スキルを習得し、実行することです。調査テーマは、企業における人の問題です。具体的テーマには、企業内コミュニケーション、チーム・マネジメント、人材育成/キャリア・マネジメント、ダイバーシティ・マネジメントなどが含まれます。近年の例としては学生のアルバイト、ワークライフバランス、ダイバーシティの効果、グローバルなキャリアなどを取り上げています。演習1・2では、インターゼミに参加するための論文や問題解決提案を全員で作成します。演習3・4ではゼミ論を各人が作成します。ゼミ活動を通じて、外部(企業や他大学)との交流を経験しながら、各人の個性を生かしつつ仲間とのチームワークを構築することが求められます。

現在の在籍人数 29名

運営形態 演習1・2・3・4を合同実施。留学については個別に相談のこと。

選考方法 面接 (自己PR用のエントリーシートの提出が必要です) **前提科目** なし

履修が望ましい科目 人的資源管理論I・II、産業社会学I・II (並行履修可)、統計学系の科目

ゼミ合宿など 他大学との交流に力を入れています。昨年は、夏に立教、明治、埼玉大の経営学ゼミとの、12月に慶応、立教、明治大学、立正大学の人的資源管理論専攻ゼミとのインターゼミ(研究報告会形式)に参加。研究と交流を深めるためのゼミ合宿などは学生が主体的に企画します。昨年度は夏休みに合宿を実施しました。

関 廷媛 (みん じょうおん)

研究テーマ 経営組織論

運営方針 経営組織論に関する論文講読をベースに、既存のアイデアを超える新しい知見を構築・検証し、論文としてまとめる。このため、理論的文献の検討や実際の企業ケースを調査したり、統計的手法による検証を行う。論文の講読は、授業の前に予習として行い、授業では学生担当者による発表・討論・教員に

よるフィードバックを行う。

現在の在籍人数 11名

運営形態 演習1・2・3・4を合同実施。留学については個別に相談のこと。

選考方法 課題提出+面接 **前提科目** 経営組織論I、II（並行履修可） **履修が望ましい科目** なし

ゼミ合宿など 合宿はゼミ生の希望に応じて行う。他大学との合同ゼミあり。

その他 既存の知識を吸収したい方より、自分の「クリエイティブ」な発想を「ロジカル」に伝えたい方を歓迎します。

マーケティング系

新井 範子（あらい のりこ）

研究テーマ 実際の市場からコンシューマ・インサイトを読み取るための専門的な知識を身につけ、実際の調査の分析から企画、プランニングまで行える能力を身につける。プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を身につける。

運営方針 文献を通しての基本的な知識の習得と、テーマを決めて、実際に調査を行っていく。ゼミ時間外の活動も多く、より実践的な知を目指す。ゼミ論文の作成をしながら、個別の調査も行っていく。また、他大学や企業との共同研究や調査も実施していく。

現在の在籍人数 32名

運営形態 演習1・2・3・4を合同実施。留学については個別に相談のこと。

選考方法 面接試験+提出書類 **前提科目** なし **履修が望ましい科目** 特になし

ゼミ合宿など ゼミ合宿は夏に実施。ゼミ生との相談により春合宿、もしくはゼミ旅行を行う予定。

その他 好奇心が強くフットワークが軽く、すぐに行動に移せる人を望む。

杉本 徹雄（すぎもと てつお）

研究テーマ 1) 消費者行動の心理学的研究
2) マーケティング・コミュニケーションやプロモーションの効果に関する調査研究
3) 質問紙調査、実験、インタビュー、観察等の方法論の習得

運営方針 消費者行動や心理、広告コミュニケーション効果を科学的に理解し、実証的に分析する力を向上させることに重点をおく。そのため、文献研究だけではなく、調査やデータ解析の方法の習得が必須となる。学外の論文コンクール等に入賞することを目標として活動している。ゼミでは、自分の考え方をきちんと発言し、それに行動が伴うことを特に重視している。

現在の在籍人数 28名

運営形態 演習1・2・3・4を合同実施。留学については個別に相談のこと。

選考方法 面接試験 **前提科目** なし

履修が望ましい科目 マーケティング・統計系の科目（学科問わず・並行履修可）

ゼミ合宿など ゼミ合宿は夏に実施。ゼミ旅行は春休みに企業見学を主体に実施する場合もある

その他 きちんと発言できる人を歓迎します。いろいろな考え方や価値観をもった学生が集まり、活力のある集団にしたいと考えています。そのため、他学部他学科の学生も歓迎します。

杉谷 陽子 (すぎたに ようこ)

研究テーマ 広告、広報、ブランド構築、ロコミ等のマーケティング・コミュニケーションに関する実証的立場からの研究を行う。

運営方針 ゼミでは、大きく分けて次の2つの活動を行う。

- ① マーケティング・コミュニケーションに関する国内外の文献を輪読する。
- ② 少グループで調査・実験を実施し、報告レポートを作成する。これらの活動を通じて、問題を論理的に考える力、ディスカッションやプレゼンテーションの技能を身につけることも目指す。4年次には卒業研究を実施し、インターカレッジのプレゼンテーション大会で発表する。

現在の在籍人数 18名(4年生)、12名(3年生)

運営形態 演習1・2・3・4を合同実施。ただし、2017年度は秋学期集中開講となる。留学については個別に相談のこと。

選考方法 レポート提出、面接試験

前提科目 なし

履修が望ましい科目 マーケティング系の科目、および統計学に関する科目。(学科問わず・並行履修可)

ゼミ合宿など 学生の希望に応じて実施する。例年、夏合宿を年1回(9月)に実施している。

その他 出席と研究への意欲を特に重視します。

Adam Johns(アダム ジョンス)

研究テーマ Cultural and Creative Industries in Global Markets

運営方針 This seminar looks specifically at the international marketing of cultural and creative industries (e.g. anime, craft, design, fashion, film, food, manga, music etc.). In Japan, these industries have received much attention recently under the banner of "Cool Japan". We will examine efforts to promote these industries and the challenges in marketing creative and cultural products in international markets. Students will cover such topics as (1) the unique properties of creative industries (2) creativity and design thinking process (3) trade in culture and international marketing of cultural industries (4) place branding and use of place brands. Seminar (zemi) sessions will include group discussion, trade show and company visits, and presentations predominantly in English, although Japanese is often required for company visits.

運営形態 演習1・2・3・4を主に単独実施だが、合同実施の場合もある。留学については個別に相談のこと。

現在の在籍人数 15名

選考方法 英語での"Personal statement" 課題提出

前提科目 特になし

履修が望ましい科目 Global Marketing 1,2 もしくはグローバルマーケティング

ゼミ合宿など ゼミ生の希望に応じて行う。(たとえば越後や京都などの地方のものづくり・伝統工芸の現場を拝見し、海外展開の提案を作成するなど)

その他 ゼミは主に英語で行う予定なので (日本語での読書、見学・企業訪問もありますが) 英語で積極的に参加する意欲が必要。

会 計 系

西澤 茂 (にしざわ しげる)

研究テーマ 財務諸表に基づく企業分析
有価証券報告書、Annual Report の会計情報の活用法
国際税務

運営方針 有価証券報告書および Annual Report を基礎とした企業分析、世界各国における会計および税務制度の研究を行うことを目的とします。
演習 1・2 では、会計学の文献輪読およびグループ単位で日本の主要企業の企業分析を行います。
演習 3・4 では、個人単位でテーマを選択し、ゼミ論を作成します。

現在の在籍人数 37名

運営形態 演習 1・2・3・4 を合同実施。留学については個別に相談のこと。

選考方法 面接試験 **前提科目** なし

履修が望ましい科目 財務諸表論 I・II、簿記 I・II (学科問わず・並行履修可)

ゼミ合宿など 春休みおよび夏休みにゼミ合宿を行います。

その他 企業会計や税務に関心を持つ学生、公認会計士や税理士などの会計専門家を目指している学生の参加を歓迎します。

王 志 (おう し)

研究テーマ 管理会計がいかなる形で企業の経営管理に役立てられるかに関する研究
如何に組織成員のモチベーションを上げるかに関する心理学的研究
中国・日本企業における経営管理システムの比較研究
日本企業の海外展開に関する研究

運営方針 グローバルに活躍し高い思考能力をもつ人材の育成につとめたい。
教科書のほか、ケースや企業の実例を挙げて、プレゼンテーション、クラス討議を中心とする演習形式で、企業経営管理のノウハウを学習していく。

現在の在籍人数 15名

運営形態 演習 1・2・3・4 を合同実施、留学については個別に相談のこと。

選考方法 課題レポートの提出+面接試験

前提科目 なし

履修が望ましい科目 管理会計論 I・II, 経営分析 I・II

ゼミ合宿など 年一回のゼミ合宿を行う予定。

その他 学生の意欲を重視する。

若林 利明 (わかばやし としあき)

研究テーマ 組織目的が営利であるか非営利であるかを問わず (つまり企業だけではなく、国、地方自治体、学校、病院やNPO法人なども含みます)、会計情報を利用者の意思決定に役立てるための研究を行ないます。

運営方針 演習1では、会計学および経営財務論の入門的なテキストを輪読します。使用するテキストは平易ですが、それに留まらず自身の興味関心に応じて発展的な内容へと展開し、報告してくれることを期待しています。演習2では、①政府・非営利組織の財務分析、②企業の財務分析、③個別会計基準の研究（のれんの償却の是非、研究開発費の資産計上の是非など）の3グループに分かれてテーマを設定し、ゼミレポートを作成します。成果は、横浜市立大、慶應ビジネススクール、早稲田大などとのインゼミにおいても報告してもらう予定です。演習3・4では個人単位でテーマを選択し、ゼミ論文を作成します。

現在の在籍人数 2名

運営形態 演習1・2・3・4を合同実施、留学については個別に相談のこと。

選考方法 面接試験 + エントリーシート等の提出書類

前提科目 特になし

履修が望ましい科目 公会計Ⅰ・Ⅱ（並行履修可）

ゼミ合宿など 夏休みにゼミ合宿を行います。

その他 昨年度に新規開講したフレッシュなゼミです。ともに新たな歴史を創っていきましょう！